

第 17 章(重点分析)ひとり親家庭等の養育者不在環境下での子どもの性被害

17.1 目的

子どもの家庭内性被害は、様々な家族構造のもとで発生している(神奈川県中央児童相談所, 2018)。家族構成のパターン抽出を含めた第 9 章の解析では、男女いずれかの養育者を不在とするひとり親家庭等の家族形態や、ひとり親家庭での被害構造に焦点を当てた知見が整理されなかった。しかし、第 6 章に示した基礎集計の結果からは、父子家庭や母子家庭等のひとり親世帯や、実父母等家庭で養育者のどちらかの居住が無いなど、養育者不在の環境下での被害が確認されている。そこで、本章では、当該「養育者の不在がある家庭」における性被害の様相について、基礎集計・可視化をもとに多面的に検討する。

17.2 方法

事例調査(調査票 B)の設問 B18 における「男性養育者の不在」および「女性養育者の不在」項目への該当情報を用いて、男女養育者それぞれの不在状況を計上した。このとき、「不在」の定義として、「被害発生期間において、離別・死別等で家庭内にいない・全く出入りがない・子どもと接触がない」という条件を採用した。したがって、本項目に該当した場合の多くは「ひとり親家庭」に該当するが、例外として一部「母親が海外在住」など、実父母等家庭ではあるが、実質的な不在に相当する場合もあることに留意されたい。当該不在状況を集計区分として利用し、「どのような点で他の例と共通し、異なっているのか」について、集計・可視化により検討した。なお、比較対象として、「男女養育者のいずれにも不在がない」事例を設定した。

17.2.1 利用データと前処理

調査票 B を用いた事例調査のうち、男女養育者の「不在」に該当した事例を抽出した。このとき、「男女養育者の両方ともが不在」といった事例は、その例数が本事業調査データにおいて極めて少ないことが見込まれた。事例の特定可能性への配慮や該当率算出が困難となることを踏まえ、不在状況の組み合わせについて集計区分を設け、該当件数を確認した。具体的には、養育者不在状況の集計区分として、(1)男性養育者の不在、(2)女性養育者の不在、(3)男女養育者の不在、(4)男女養育者の不在なしの 4 つを設けた。

17.2.2 適格基準

主たる被害児童の被害発覚時(受理時点)年齢に、欠損のある事例データを除外対象とした。また、養育者不在状況の集計区分を作成した際に、区分に含まれる例数が 3 件未満である区分を集計上の除外対象とした。欠損については、各種集計で「欠損」の区分を設けて結果を示す

17.2.3 統計解析

男性および女性養育者に関する所見や、養育環境・世帯情報に関する所見については、それに関連する項目数が膨大になる。了解可能性を高めるため、各所見区分ごとに潜在クラス分析を適用し、抽出されたパターンを集計・可視化に使用した。潜在クラス分析の方法および結果は、第9章と同一であり、本章では第9章で得られた結果をそのまま援用した。

17.3 結果

17.3.1 データ抽出の結果

組み入れ基準を満たした事例を抽出した結果、年齢の欠損を除いた704件の事例データが抽出された。また、男女養育者両方の不在に該当する事例は2件となったため、本章の集計・可視化手続きには含めなかった。

17.3.2 養育者の不在に関する基礎情報

養育者の不在がある子どもの家庭内性被害事例は、組み入れ基準を満たした704件の事例のうち、男性養育者の不在事例が63件、女性養育者の不在事例が37件、男女養育者の不在事例が2件含まれる結果となった(図17.1)。

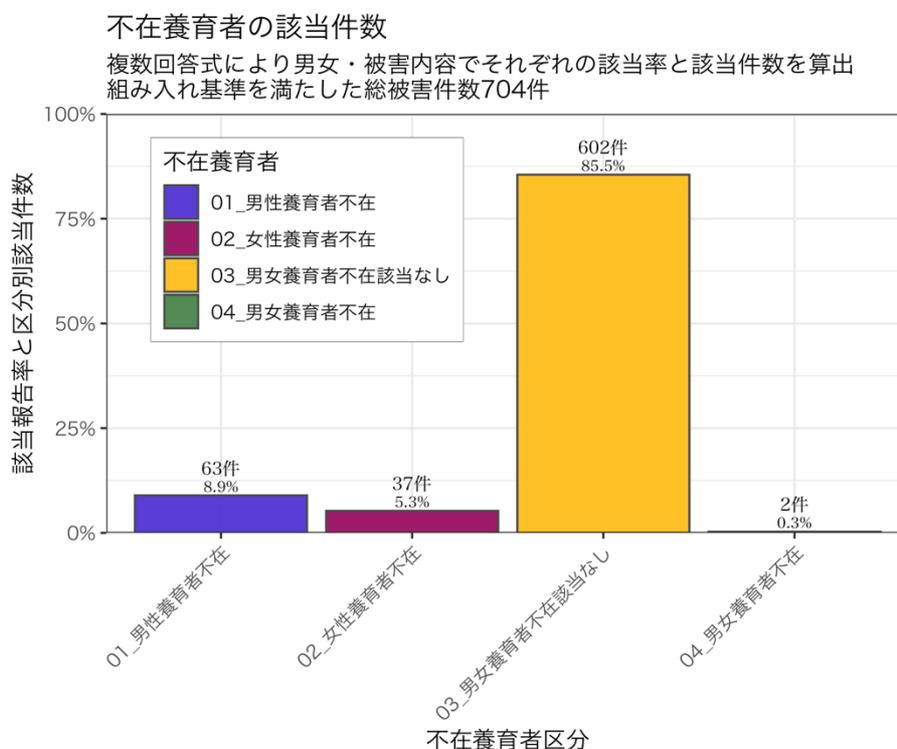


図 17.1 不在養育者の区分別該当件数

男女養育者が両方とも不在となっている2件の事例については、子どもの年齢や被害内容等の集計軸から整理した際に、事例の特定可能性が懸念されるため(1件のみの場合、集計値が代表値にならない)、集計の対象からは除外を行った。したがって、以降の集計では、「男性養育者が不在」「女性養育者が不在」、「男女養育者の不在に該当なし」の3群比較で集計を実施する。

17.3.3 被害児童の基礎情報

被害児童の基礎情報として、被害児童の性別を集計した(図17.2)。その結果、女性養育者が不在の環境下(父子家庭等)においては、男児の被害事例は含まれない結果となった。

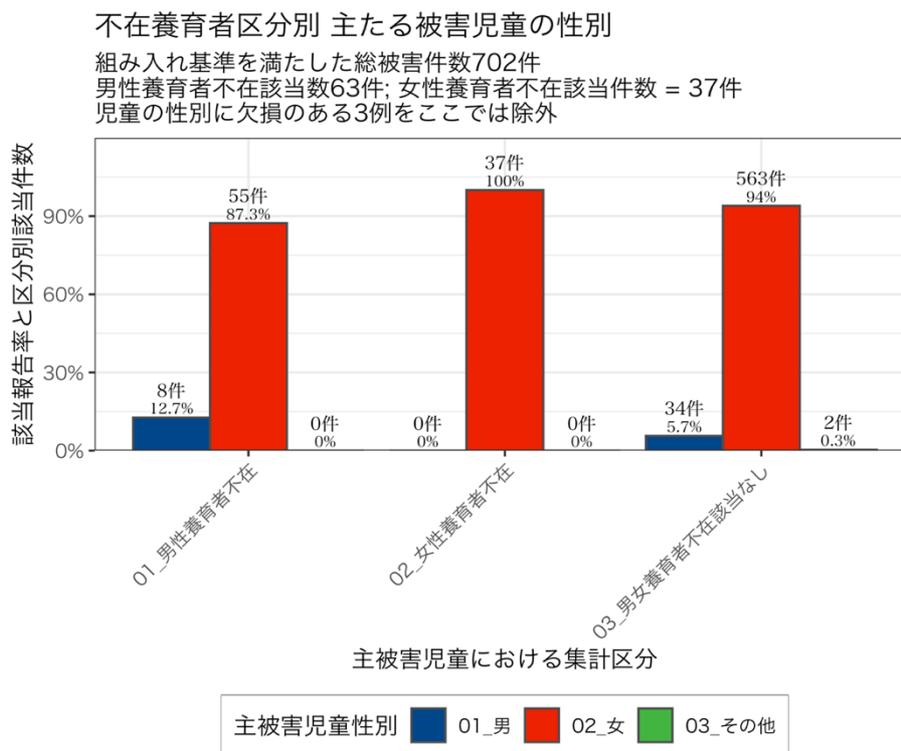


図17.2 不在養育者の集計区分別 主被害児童の性別

被害児童の年齢を不在養育者区分別で度数分布表示した結果を図17.3に示す。年齢範囲やピークに、区分別での明確な違いは観察されなかった。

不在養育者区分別 主たる被害児童の年齢

組み入れ基準を満たした総被害件数702件

男性養育者不在該当数63件; 女性養育者不在該当件数 = 37件

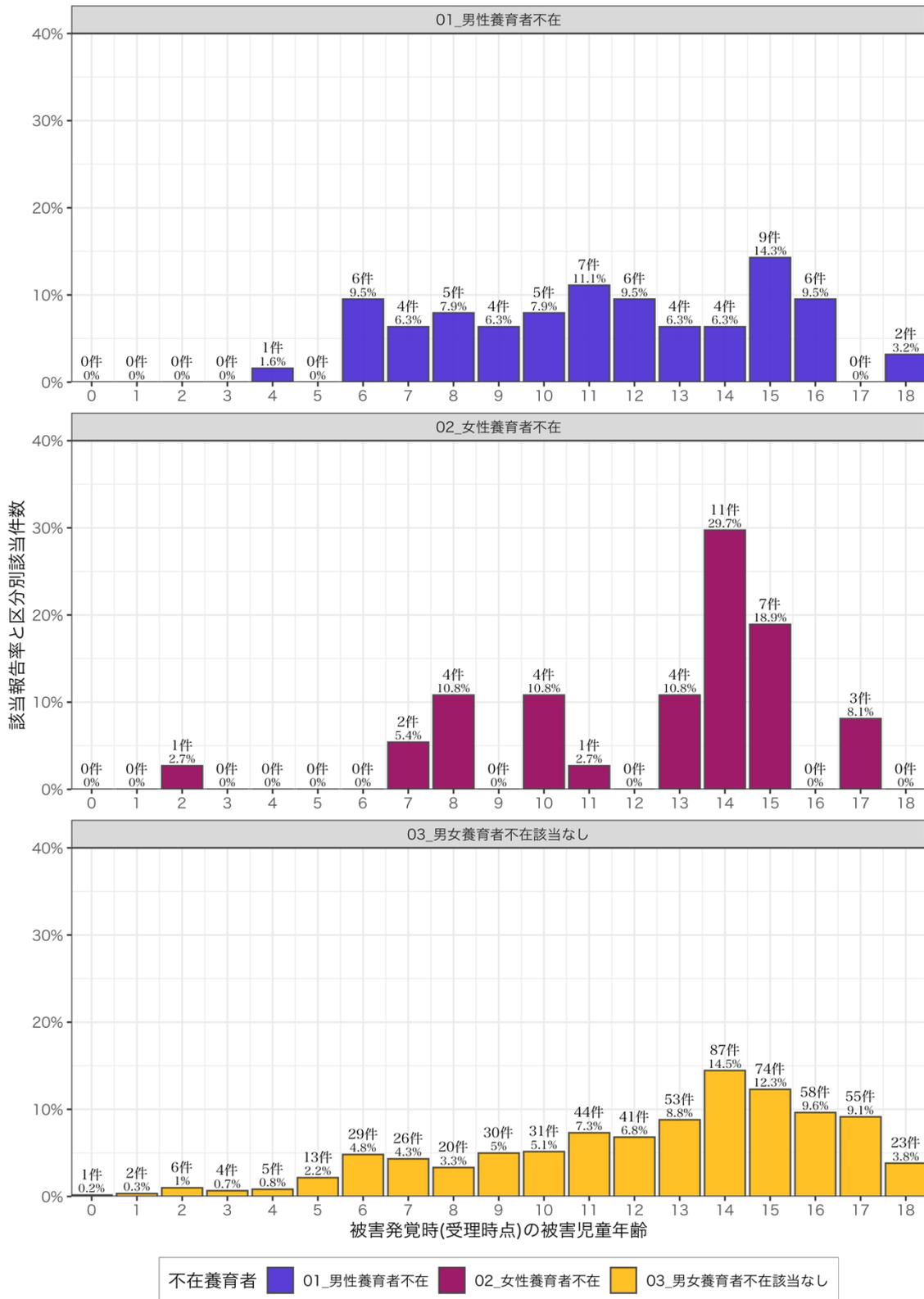


図 17.3 不在養育者集計区分別 種被害児童の年齢

被害児童に随伴する問題と障害について区分別での集計を行ったところ、男性養育者が不在の場合においてネグレクトに該当する割合が高い傾向が認められた(図 17.4)。

不在養育者区分別 主被害児童の随伴問題と障害

組み入れ基準を満たした総被害件数702件

男性養育者不在該当数63件; 女性養育者不在該当件数 = 37件

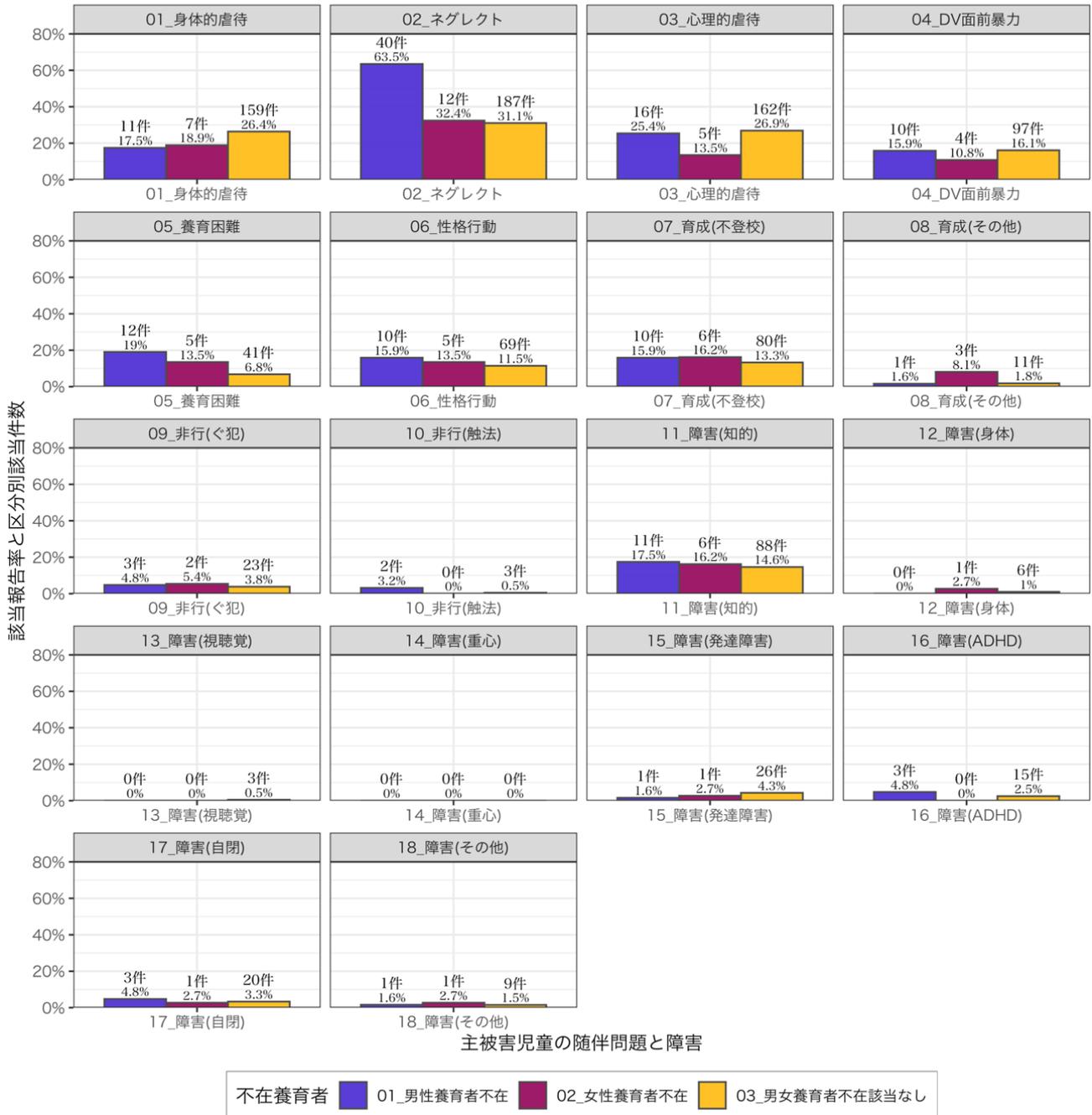


図 17.4 不在養育者集計区分別 主被害児童の随伴問題と障害

17.3.4 被害内容と頻度・継続期間

不在養育者区分別で、被害内容に関する情報の集計結果を整理する。

被害内容に関して集計を行ったところ、男性養育者不在の場合において、(1)身体接触の割合がやや低く、(2)性行為を見せる行為への該当率がやや高い傾向が観察された。女性養育者不在の場合は、(1)着替えや入浴を覗く、その他の被害例がやや多いこと、(2)肛門性交・性行為を見せる被害例が本事業調査では報告されなかったことが挙げられる。なお、これらを踏まえた上で、全体的な視座からは、不在養育者の有無に拘らず、多様な被害例への該当報告が認められる結果となった(図 17.5)。

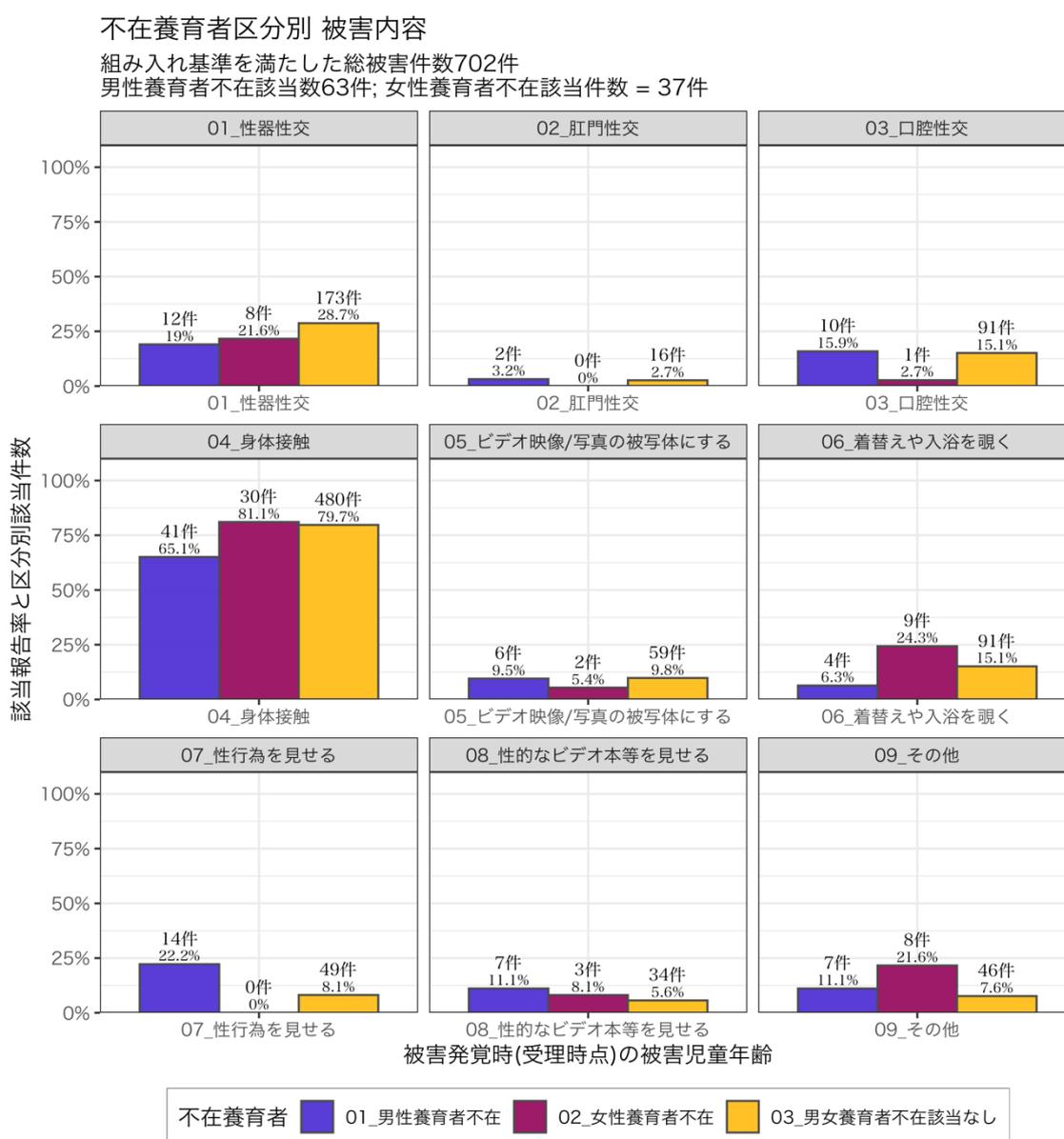


図 17.5 不在養育者集計区分別 被害内容

性的搾取等の被害に関する集計結果を図 17.6 に整理する。本事業調査は、「家庭内性被害」に焦点を当てたものであることもあり、全体的に該当率が少ないことから、結論には保留が必要となる。しかし、特筆すべき点として、オンラインの性被害や児童ポルノ、援助交際等の被害は、男性養育者の不在環境下で該当報告が目立つ結果になっている。

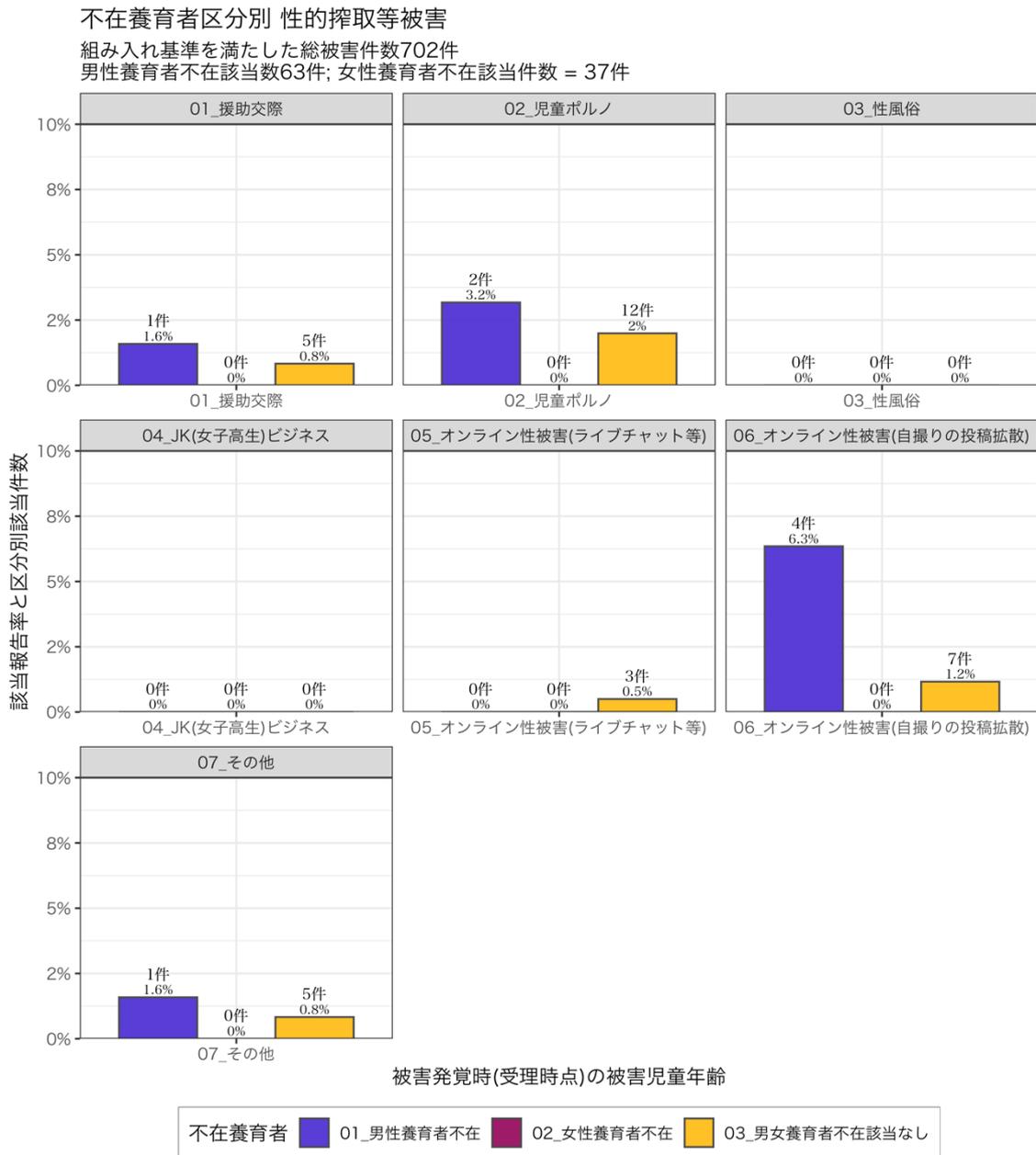


図 17.6 不在養育者集計区分別 性的搾取等被害

不在養育者区分別での被害の頻度情報を集計した結果を図 17.7 に示す。その結果、(1)男性養育者不在の場合において「常態化」の該当率が低く、(2)女性養育者不在の場合において、「常態化」の該当率が高い傾向が観察された。

不在養育者区分別 被害頻度

組み入れ基準を満たした総被害件数702件

男性養育者不在該当数63件; 女性養育者不在該当件数 = 37件

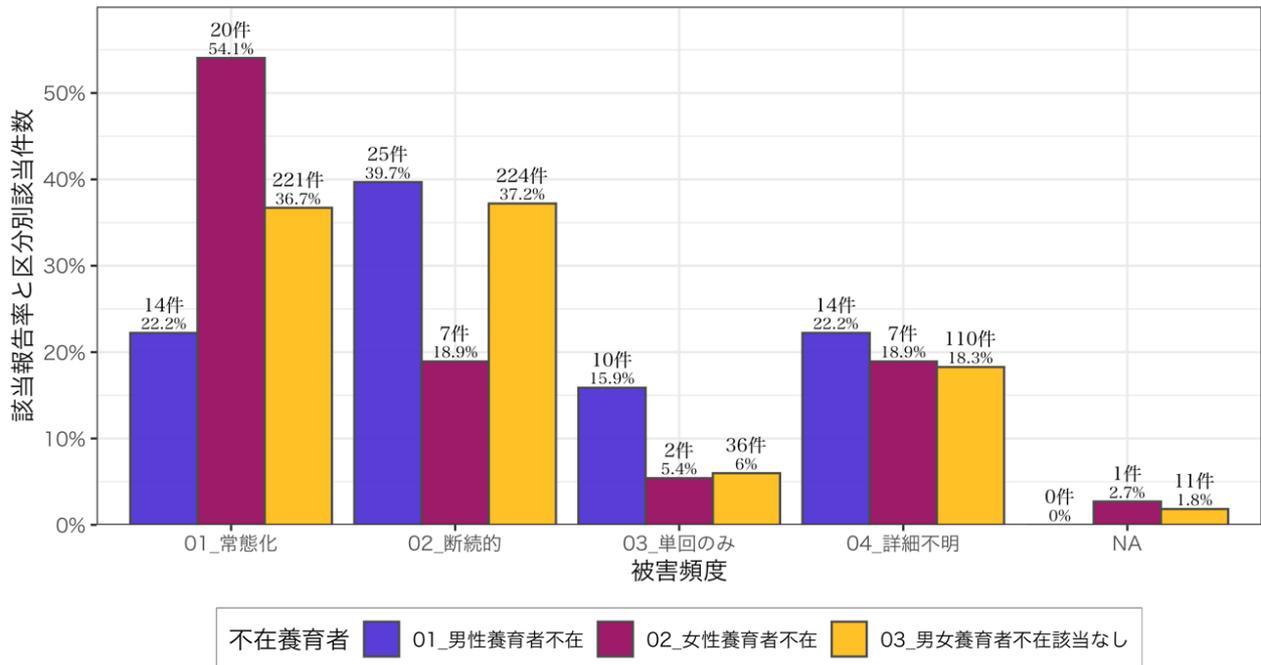


図 17.7 不在養育者集計区分別 被害の頻度

続いて、不在養育者の区分別での被害初発年齢に関する度数分布を図 17.8 に示す。分布を確認した結果、各区分に含まれる事例数を鑑みれば、被害の初発年齢に関する範囲やピークに明確な違いは見受けられなかった。

不在養育者区分別 被害初発年齢

組み入れ基準を満たした総被害件数702件

男性養育者不在該当数63件; 女性養育者不在該当件数 = 37件

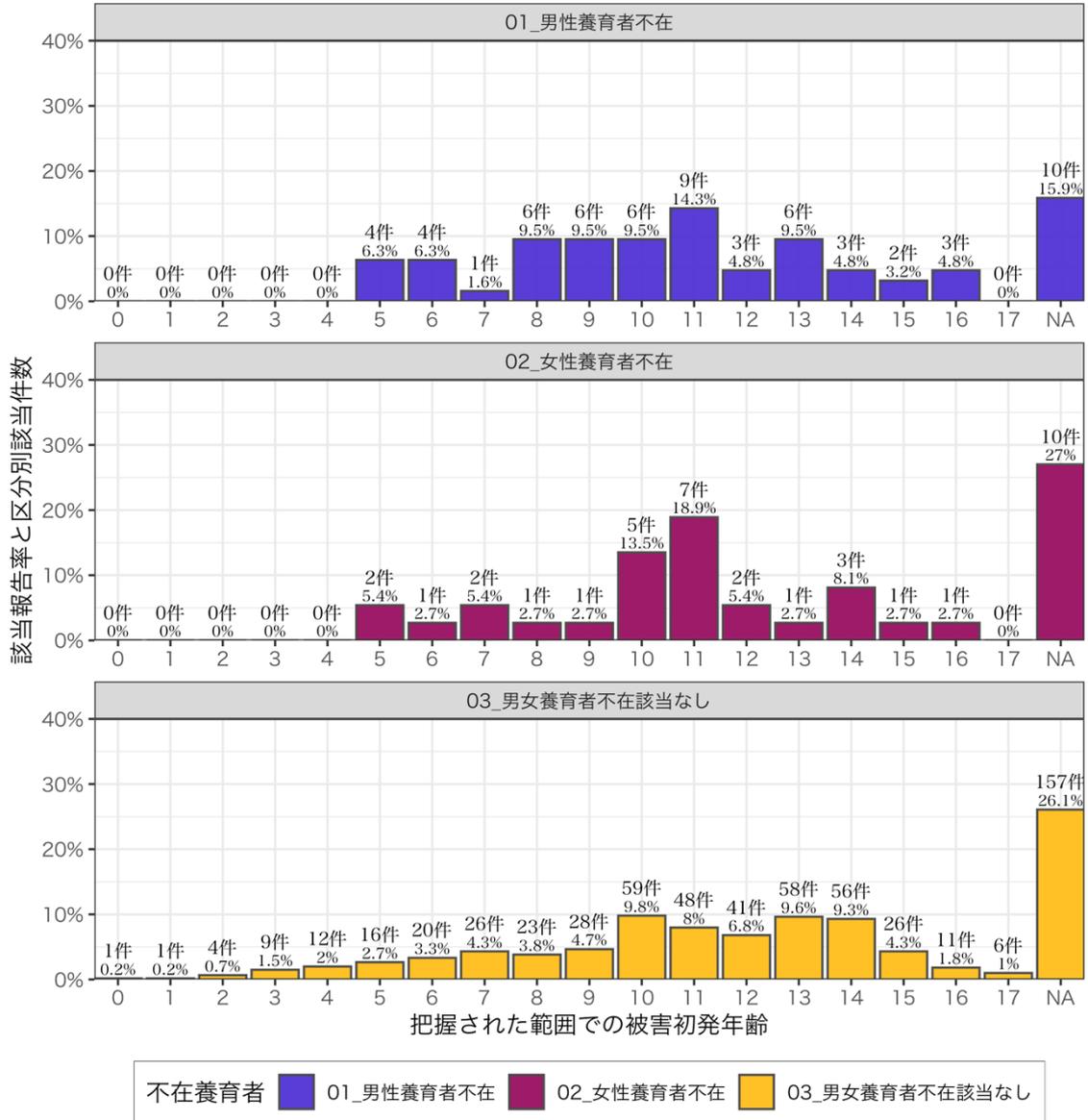


図 17.8 不在養育者集計区分別 被害の初発年齢(把握された範囲)

被害の初発年齢と被害発覚時点(受理時点)の年齢差から計算した被害の継続年数を、不在養育者の区分別で集計した結果を図 17.9 に示す。被害の継続年数も同様にして、区分別での明確な違いは観察されなかった。

不在養育者区分別 被害継続年数

組み入れ基準を満たした総被害件数702件

男性養育者不在該当数63件; 女性養育者不在該当件数 = 37件

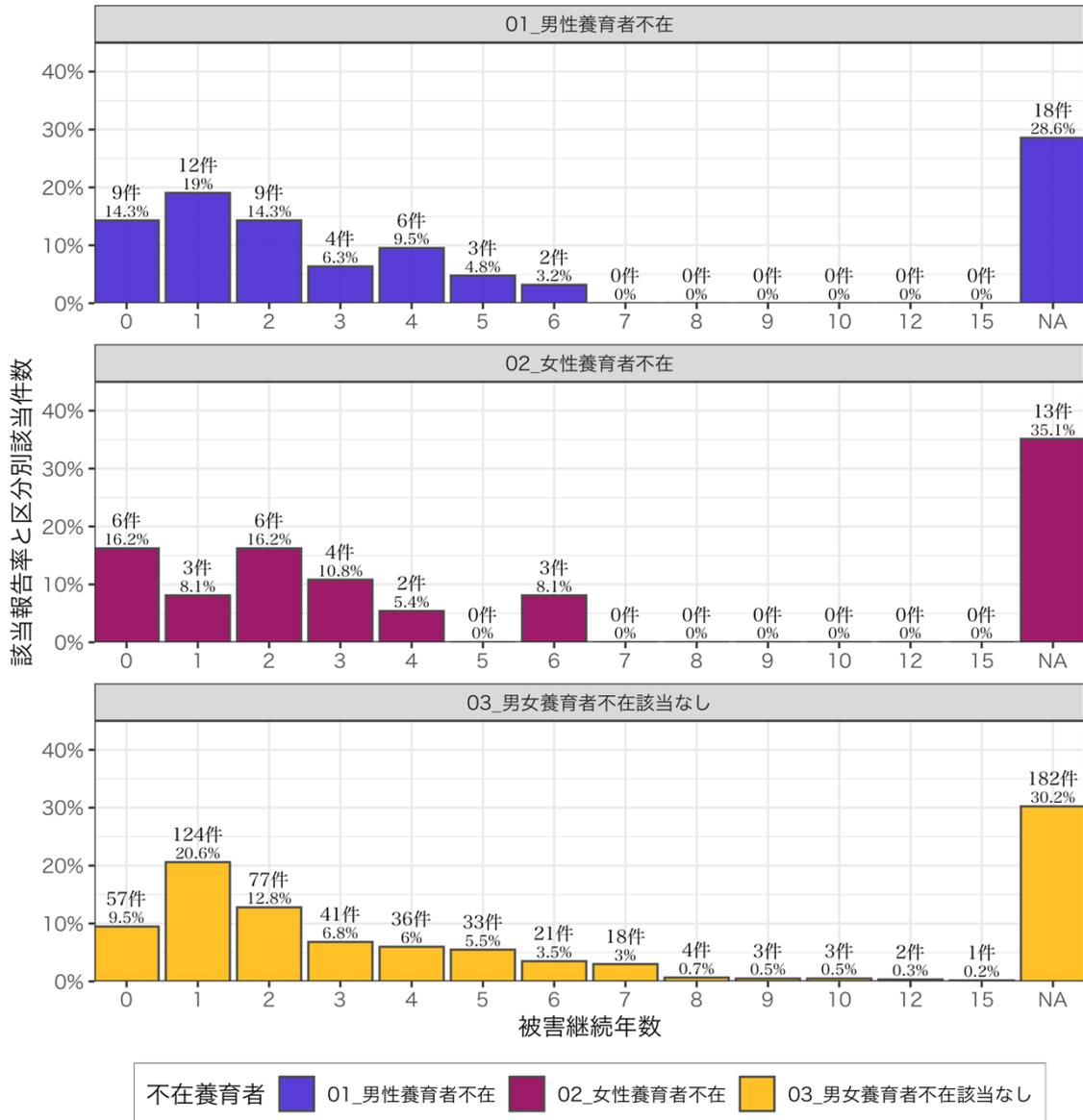


図 17.9 不在養育者集計区分別 被害の継続年数

17.3.5 最初の受理区分

不在養育者の区分別での「最初の受理区分」に関する報告結果を図 17.10 に示す。本事業の調査は、「家庭内性被害」を対象とした調査であり、「他種別から被害が発覚した事例」について積極的に回答を依頼した訳ではないため、他種別での受理に該当する件数の多寡については、参考程度にとどめられたい。集計の結果、男性養育者が不在の事例において、他種別での相談事例からの被害報告事例が多い傾向にあり、女性養育者不在の場合は、最初の受理区分から性的虐待、またはネグレクト(性的虐待)に該当した事例が多かった。

不在養育者区分別 最初の受理区分

組み入れ基準を満たした総被害件数702件

男性養育者不在該当数63件; 女性養育者不在該当件数 = 37件

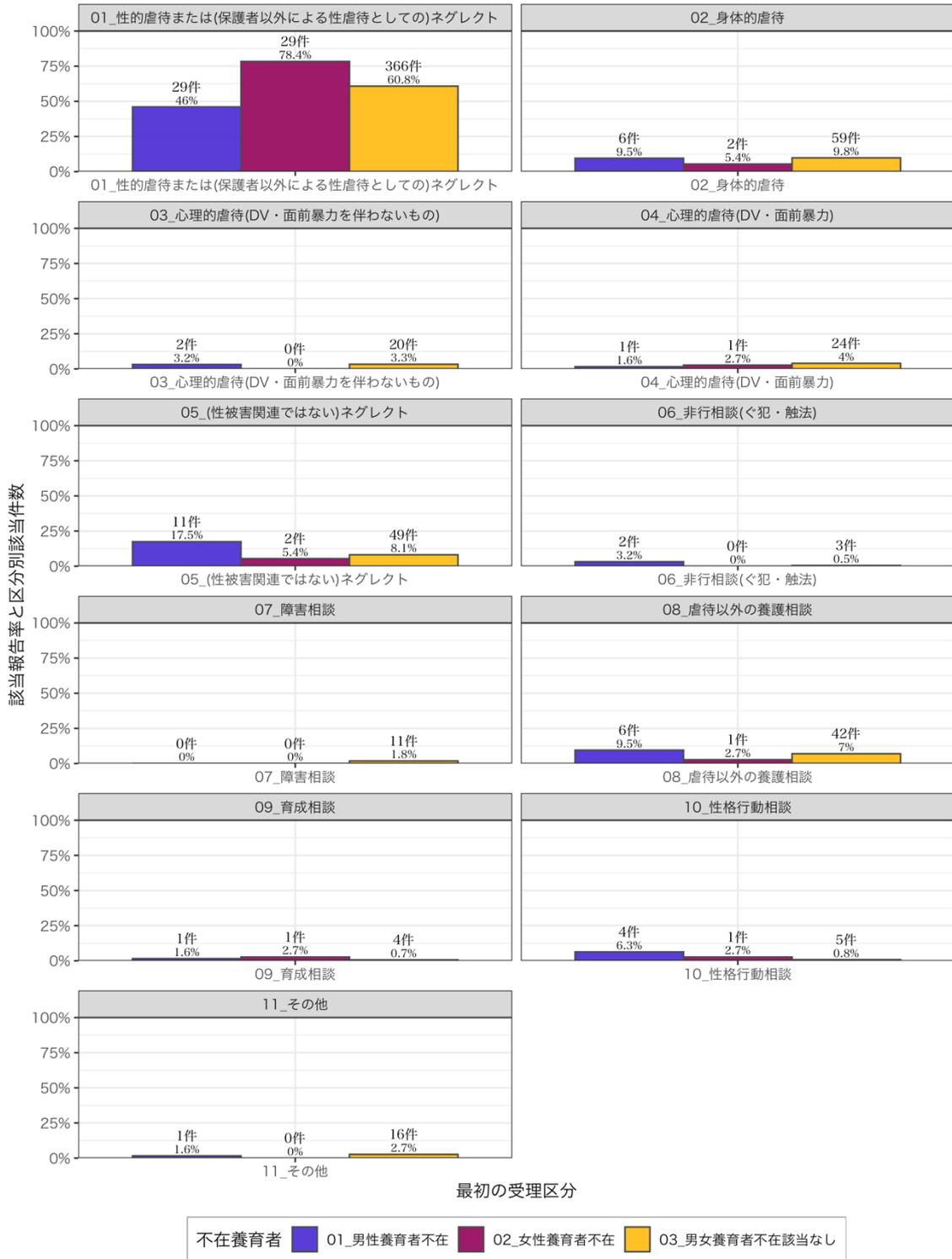


図 17.10 不在養育者集計区分別 最初の受理区分

17.3.6 家族構成

続いて、不在養育者区分別での「家族構成に関する潜在クラスの結果」を集計した(図17.11)。その結果、男性養育者が不在の場合、(1)母子家庭・内縁男性の出入り・居住に該当する場が多かった。ひとり親を含む実母家庭・実父家庭において、その他の親族の同居がある構成パターンと、その他の親族の同居がない構成パターンについては、不在養育者の区分によらず、同様の傾向が認められた。

不在養育者区分別 家族構成潜在クラス

組み入れ基準を満たした総被害件数702件
 男性養育者不在該当数63件; 女性養育者不在該当件数 = 37件

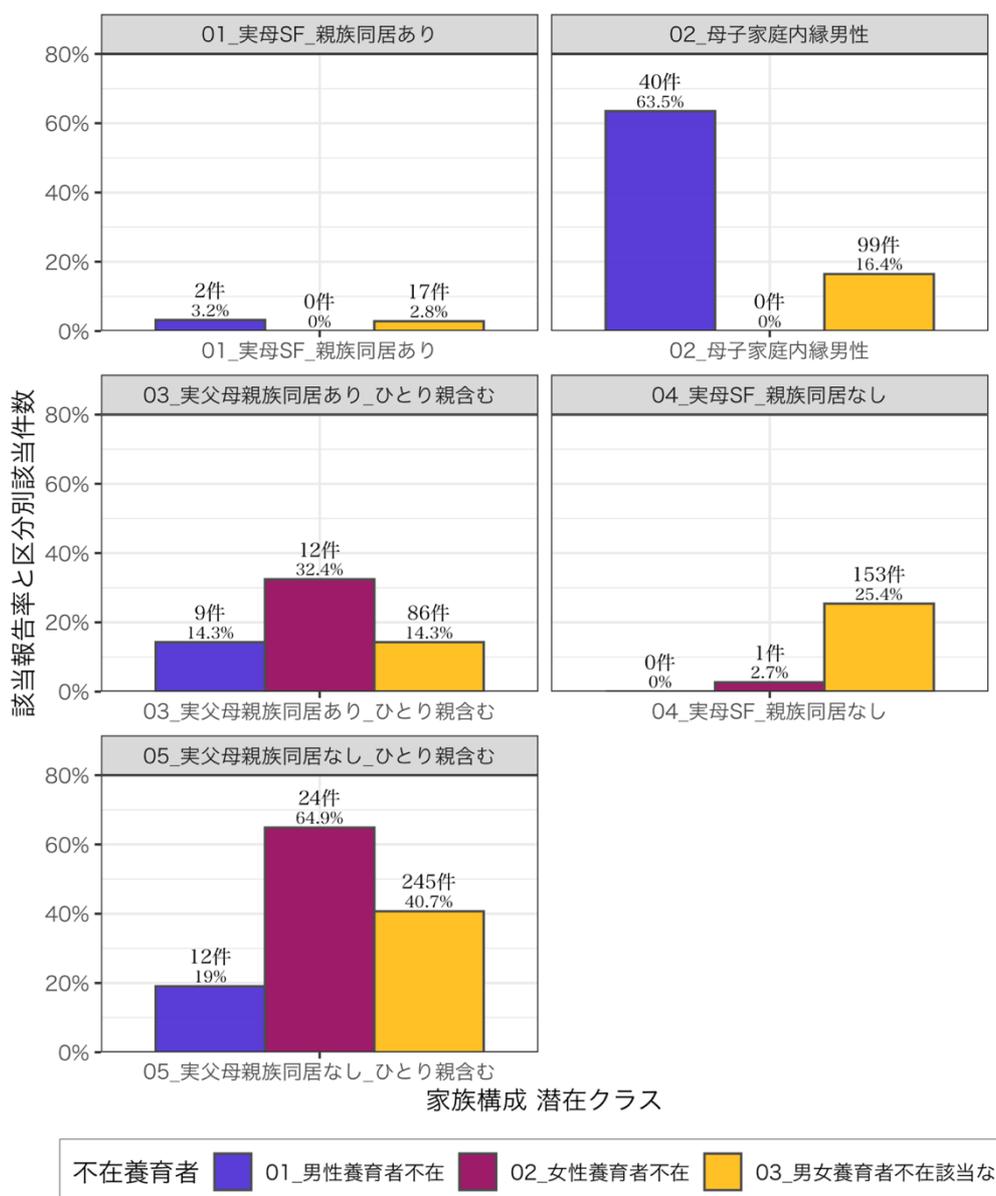


図 17.11 不在養育者集計区分別 家族構成 潜在クラス